

統計データとアンケート調査を用いた分析状況

令和7年10月17日（金）
第二回 東大和市立地適正化計画策定懇談会

令和7年10月24日（金）
第二回 東大和市地域公共交通協議会

目次

1	統計分析（追加）	2
1.	人口・世帯数	2
2.	都市機能	4
3.	土地利用	
4.	交通	5
5.	都市経営	
6.	安全・安心	6
2	アンケート調査を用いた分析	8
1.	人口・世帯数	8
2.	都市機能	10
3.	土地利用	
4.	交通	15
5.	都市経営	
6.	安全・安心	17

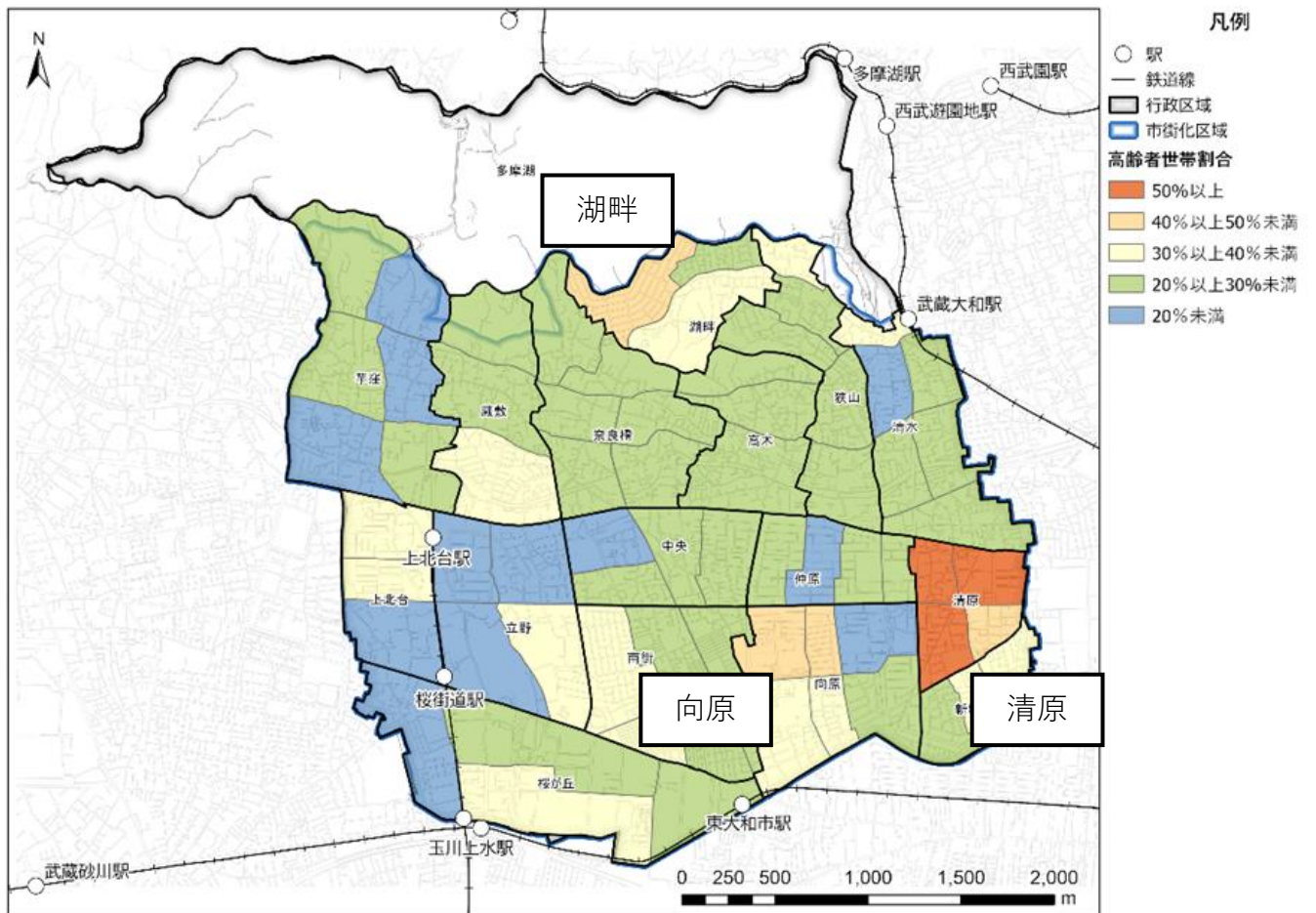
※構成は資料1の「3 現状分析」に合わせています。統計分析（追加）やアンケート調査を用いた分析に該当しない項目は灰色（グレー表示）しています。

7 統計分析（追加）

1. 人口・世帯数

■町丁目別世帯構成の分布（65歳以上高齢者のみ世帯）

- ・ 都営団地が立地する清原や向原では「65歳以上高齢者のみ世帯」の割合が高い
- ・ 湖畔の一部には割合が40%以上の地区がある
- ➡他の分析と組み合わせつつ、誘導区域や都市機能増進施設（誘導施設）の検討などに活用予定



町丁目別65歳以上高齢者のみ世帯数の割合
（出典：国勢調査（令和2（2020）年））

7 統計分析（追加）

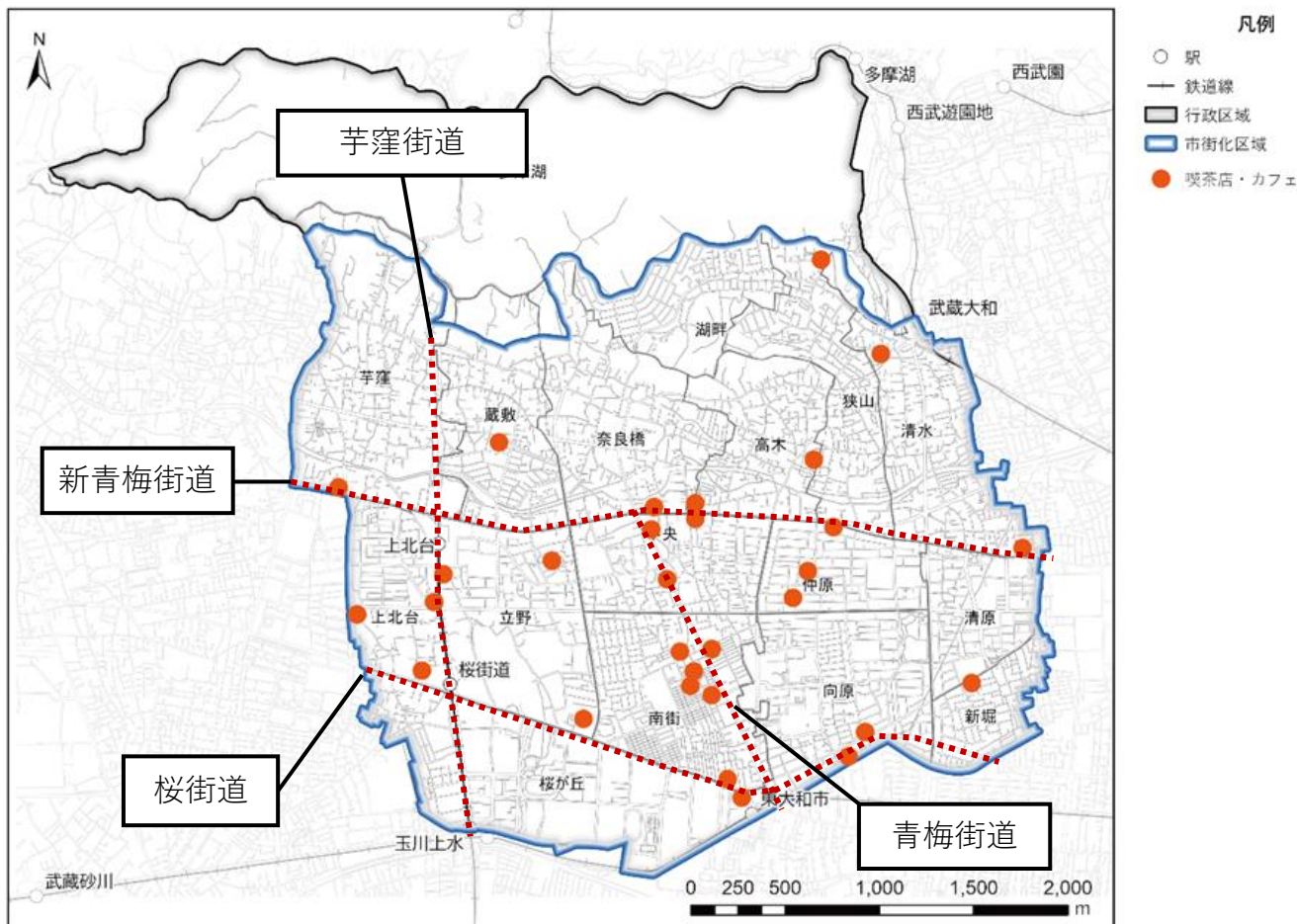
2. 都市機能

■各駅周辺の飲食店数、喫茶店・カフェの分布

- ・飲食店数は、東大和市駅が最も多く、武蔵大和駅以外は一定程度の立地がある
- ・喫茶店・カフェは青梅街道沿道に比較的多く立地している。
- ・飲食店と喫茶店・カフェの立地傾向を捉え、拠点の機能（役割）などの検討に活用予定

	飲食店	う 個人店	ち チェーン	喫茶店	合計
東大和駅	69	50	19	2	71
玉川上水駅	12	5	7	0	12
上北台駅	27	10	17	2	29
武蔵大和駅	4	4	0	1	5

各駅500m圏の飲食店等の立地件数



喫茶店・カフェの分布

（出典：食べログ（令和7（2025）年9月18日現在）調べ）

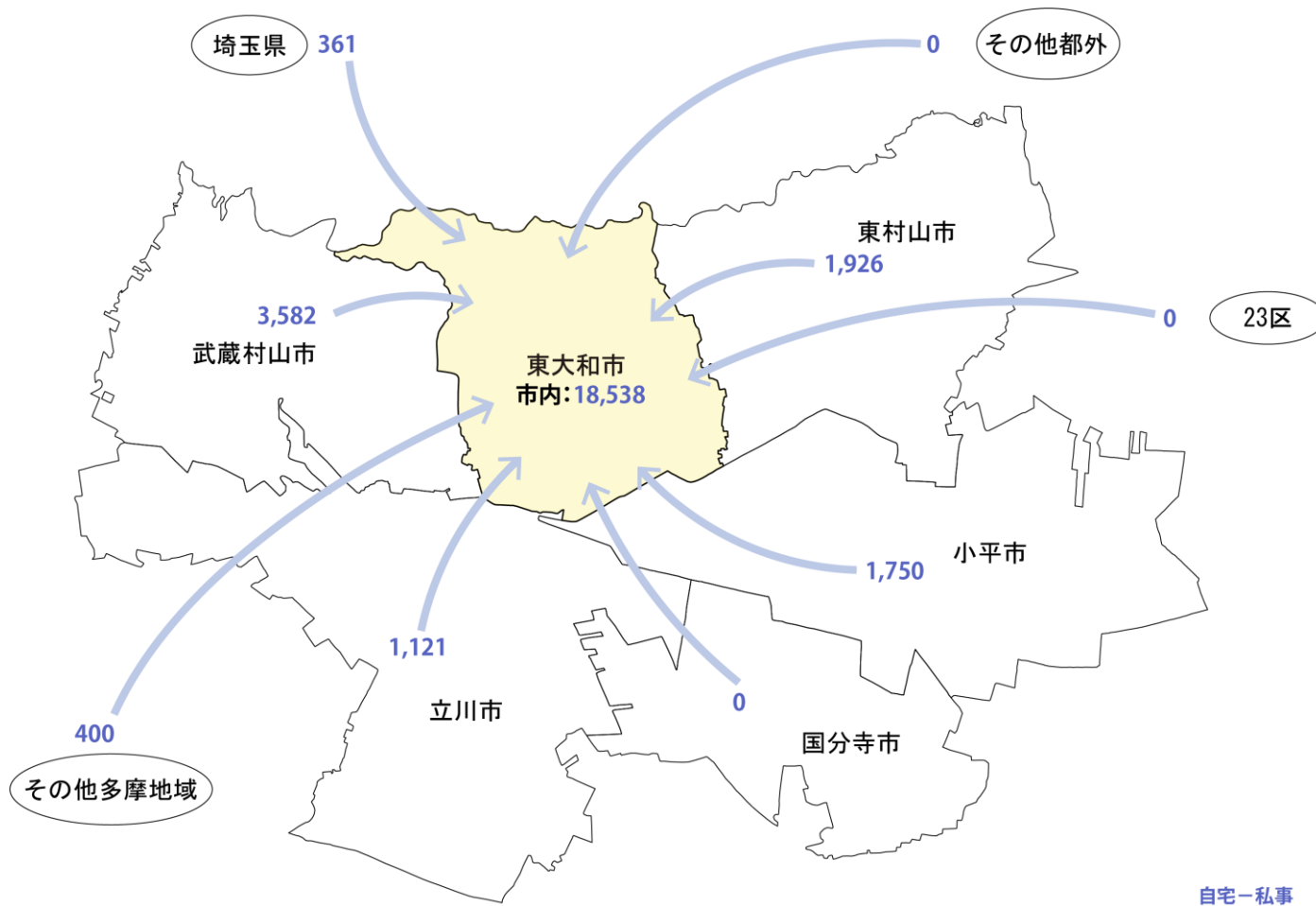
1 統計分析（追加）

4. 交通

■目的別目的地の分布（市外から市内への私事目的のトリップ）

- ・ 周辺自治体から東大和市内への買い物などの私事目的での移動は、武蔵村山市からの移動が多い
 - ・ 東村山市、小平市、立川市からも1,000回以上の移動がある
- ➡引き続き、推察にはなるものの、市外からの移動目的や目的地等を検証が必要

パーソントリップ調査は人の移動について、目的、移動先、移動時間帯、交通手段を詳細に把握するものです。私事目的とは、買い物や食事、観光、通院、散歩などの通勤・通学や仕事での移動以外の目的全般が該当します。



私事目的における市内から市外への移動量
（出典：第6回東京都市圏PT調査）

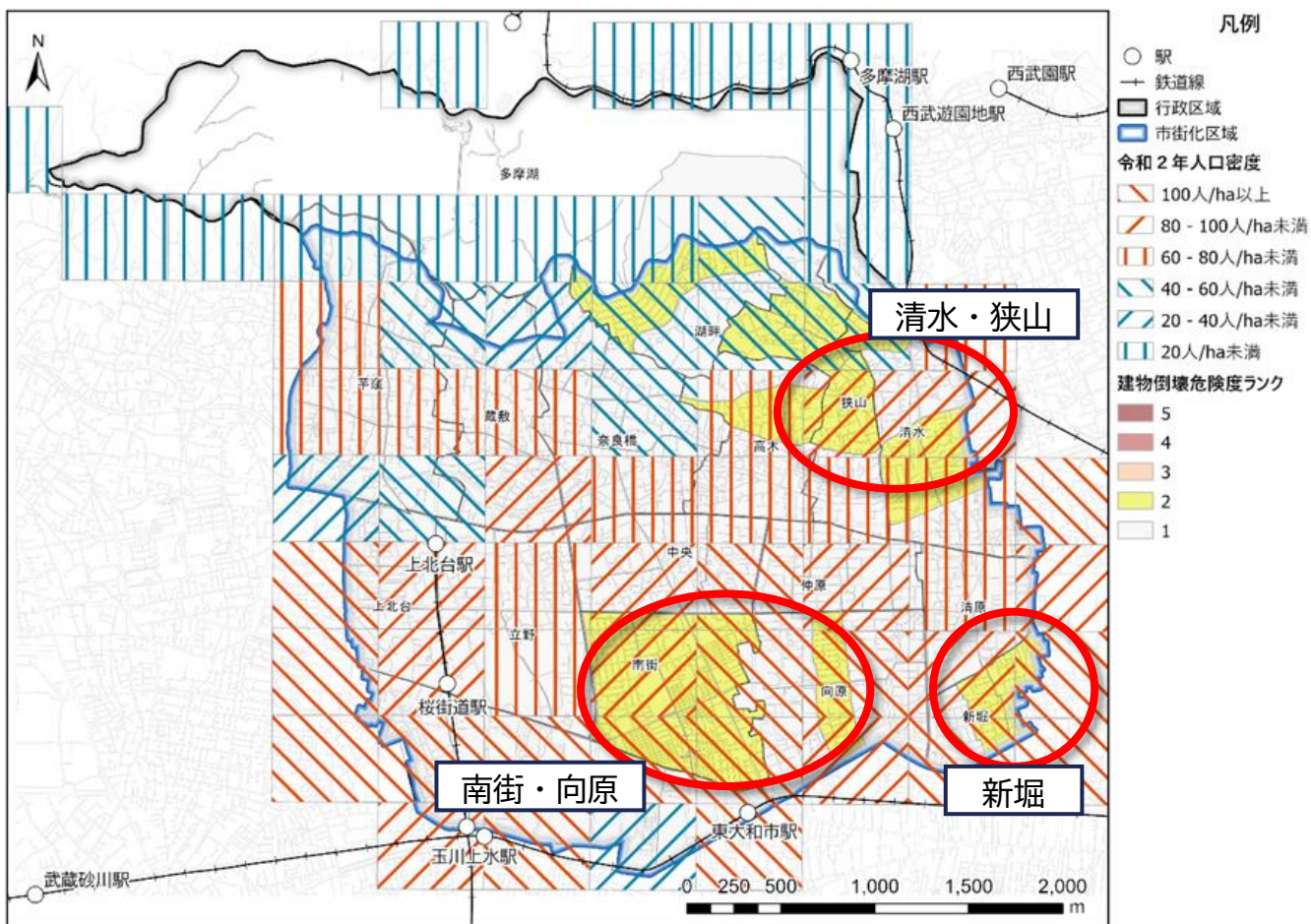
7 統計分析（追加）

6. 安全・安心

■災害リスク：建物倒壊危険度×人口密度

- ・南街、向原、新堀、清水、狭山では、建物倒壊危険度ランクが2かつ人口密度が80人/ha以上の地区がある

➡災害リスクのある地区における、居住誘導区域の設定や防災指針の検討などに活用予定



建物倒壊危険度×人口密度

(出典：東京都「地震に関する地域危険度測定調査（第9回）」（令和4（2022）年）、令和2（2020）年国勢調査）

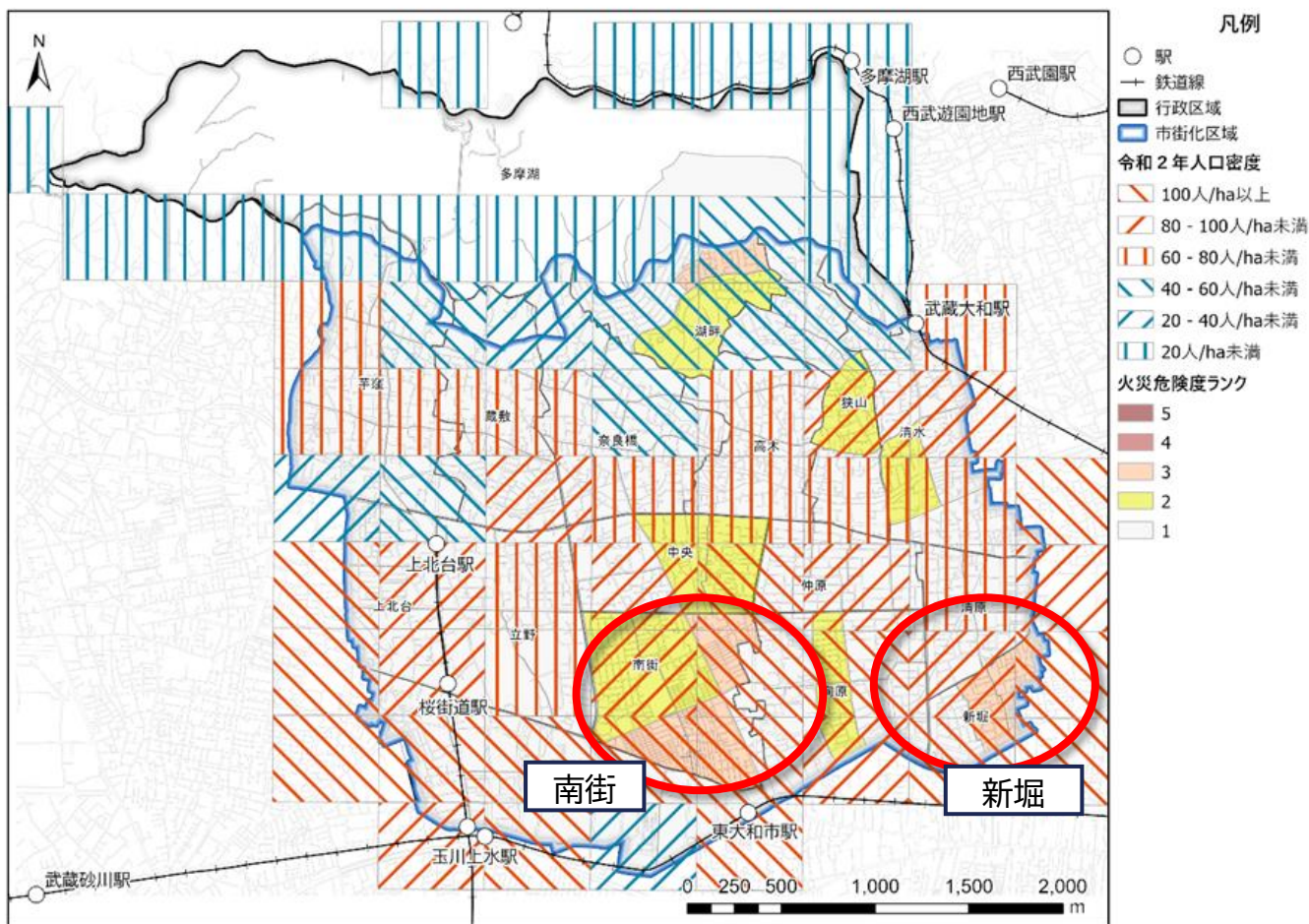
7 統計分析（追加）

6. 安全・安心

■災害リスク：火災危険度×人口密度

- ・南街、新堀では、火災危険度ランクが3かつ人口密度が80人/ha以上の地区がある

➡災害リスクのある地区における、居住誘導区域の設定や防災指針の検討などに活用予定



火災危険度×人口密度

(出典：東京都「地震に関する地域危険度測定調査（第9回）」（令和4（2022）年）、令和2（2020）年国勢調査）

2 アンケート調査を用いた分析

1. 人口・世帯数

■まちに対する評価（参考：転入者、転出者及び子育て世帯アンケート調査（令和3年度実施））

- ・子育て世帯が居住地に選んだ理由をみると、出産・子育てを契機とした転入であることが伺える
 - ・自身の居住歴、地縁、土地勘があるなど「リピーター」要因も見られる
- ➡子育て世帯が居住地を決めた理由を分析しつつ、それを維持・継続する取組の検討などに活用予定

子育て世帯が東大和市に居住地を決めた理由（上位4位ほか）

（出典：転入者、転出者及び子育て世帯アンケート調査（令和3年度実施））

選択肢	件数	%
住宅価格・家賃	159	36.6
父母世帯と同居・近居	142	32.6
通勤・通学の利便性	134	30.8
買い物など日常生活の利便性	93	21.4
生まれ育ったところ	79	18.2
配偶者等の住居があったから	72	16.6
...		
子育て環境	65	14.9

令和3年度調査の調査対象と有効回答数

■転入者アンケート

- ・調査期間中に市民課窓口にて転入届を提出した方310人

■転出者アンケート

- ・調査期間中に市民課窓口にて転出届を提出した方258人

■子育て世帯アンケート調査

- ・調査期間中に乳幼児健診のために保健センターに来庁した保護者435人

2 アンケート調査を用いた分析

2. 都市機能

■転入理由（参考：転入者、転出者及び子育て世帯アンケート調査（令和3年度実施））

- ・転入者が居住地に選んだ理由は「住宅価格・家賃」に次いで、「通勤・通学の利便性」「日常生活の利便性」が多い
 - ・転出者が住んでいてよかったと思うことは「日常生活への利便性」に次いで「立川方面への利便性」「通勤通学の利便性」が多い
- ➡転入者と転出者の評価のギャップを分析しつつ、地域の買い物環境を維持する取組の検討などに活用予定

転入者が東大和市に居住地を決めた理由（上位5位）
（出典：転入者、転出者及び子育て世帯アンケート調査（令和3年度実施））

選択肢	件数	%
住宅価格・家賃	143	46.1
通勤・通学の利便性	127	41.0
買い物など日常生活の利便性	57	18.4
立川方面への利便性	52	16.8
自然環境	41	13.2

転出者が東大和市に住んでいてよかったと思うこと（上位5位）
（出典：転入者、転出者及び子育て世帯アンケート調査（令和3年度実施））

選択肢	件数	%
買い物など日常生活の利便性	102	39.5
立川方面への利便性	83	32.2
通勤・通学の利便性	79	30.6
生まれ育ったところ	68	26.4
自然環境	65	25.2

2 アンケート調査を用いた分析

2. 都市機能

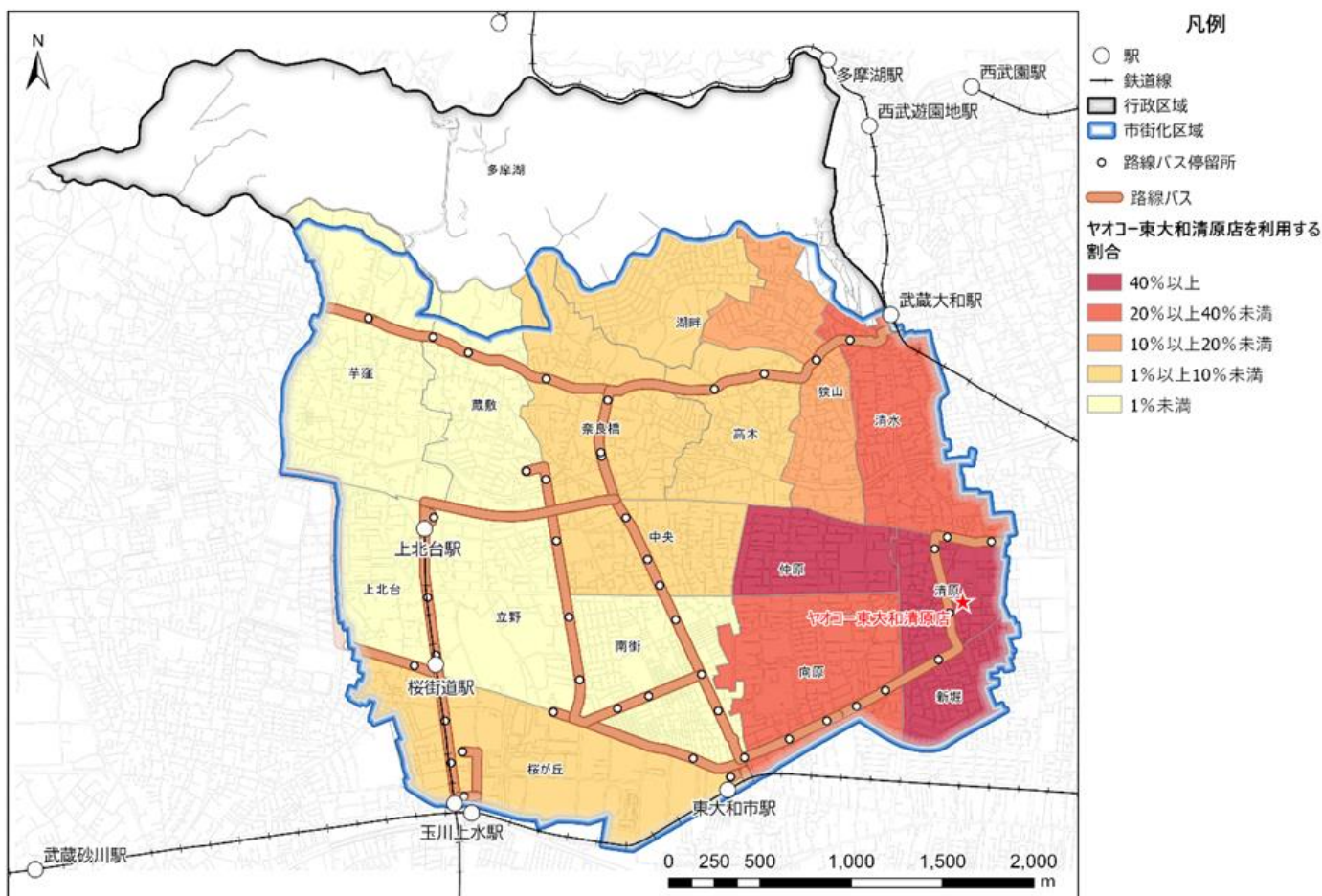
■食料品販売店の利用圏（「東大和市のまちづくり・地域公共交通に関する住民アンケート調査」（令和7年7月実施））

- ・日用品の購入先を販売店ごとに町別の利用割合を図化したところ、地域ごとに商圏が形成されている

➡販売店の立地場所やその商圏を都市構造と重ねつつ、拠点や公共交通軸の設定の妥当性や、都市機能増進施設（誘導施設）の検討などに活用予定

今回実施した調査の調査対象と有効回答数

- ・調査対象：16歳以上の東大和市民 3,000人
- ・有効回収数：1,033件



ヤオコー東大和清原店を利用するという人の割合

（出典：東大和市のまちづくり・地域公共交通に関する住民アンケート調査）

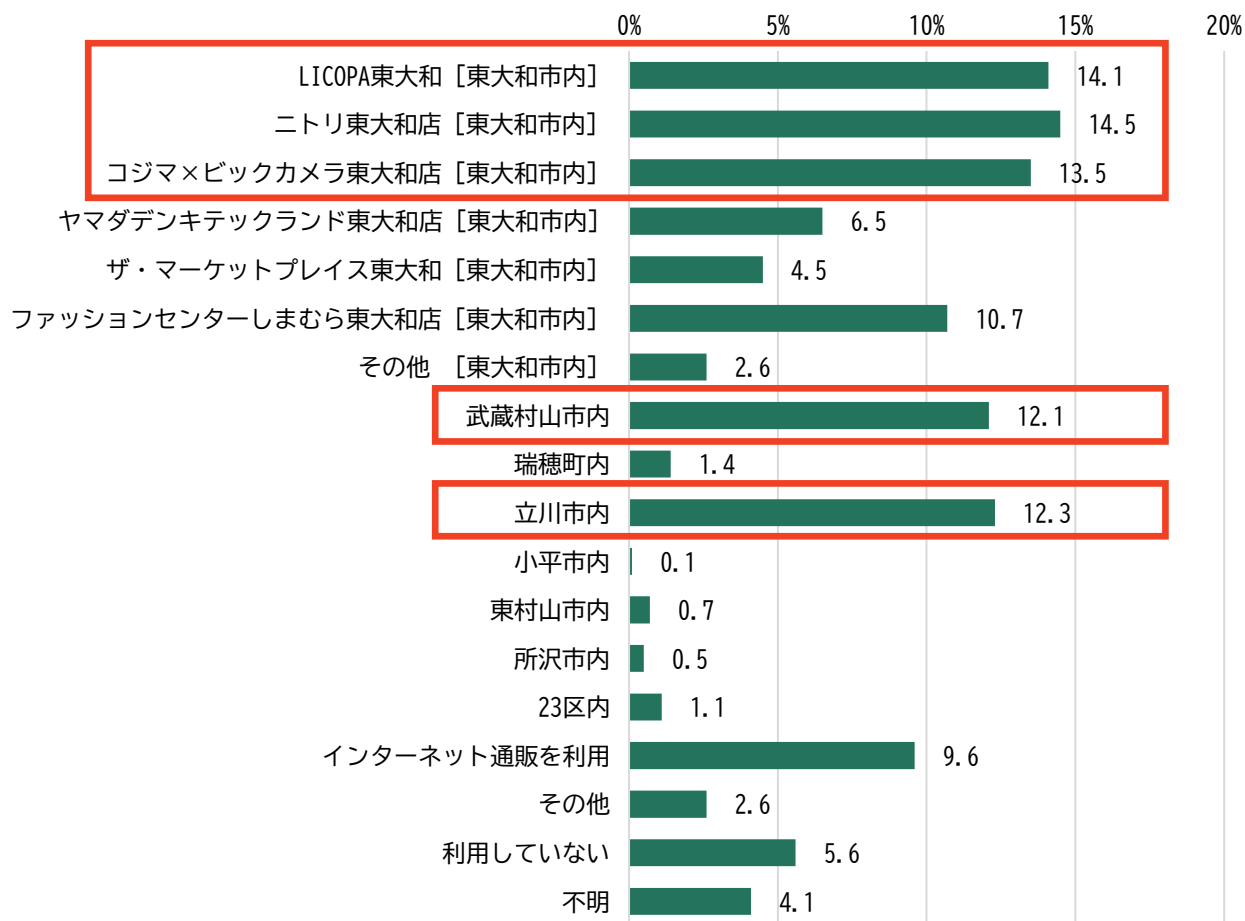
2 アンケート調査を用いた分析

2. 都市機能

■買い回り品の購入先（「東大和市のまちづくり・地域公共交通に関する住民アンケート調査」（令和7年7月実施））

- ・ 買回り品の購入元をみると、LICOPA東大和、ニトリ東大和店、コジマ×ビックカメラ東大和店が多い
 - ・ 商業集積地である立川市内や大型商業施設が立地する武蔵村山市内と市内商業施設の利用の割合は同程度
- ➡都市機能誘導区域の検討に活用予定

※本調査の回答者は、市民の年齢別人口に比べて中高年にやや偏っているため、年齢別の分析も検討



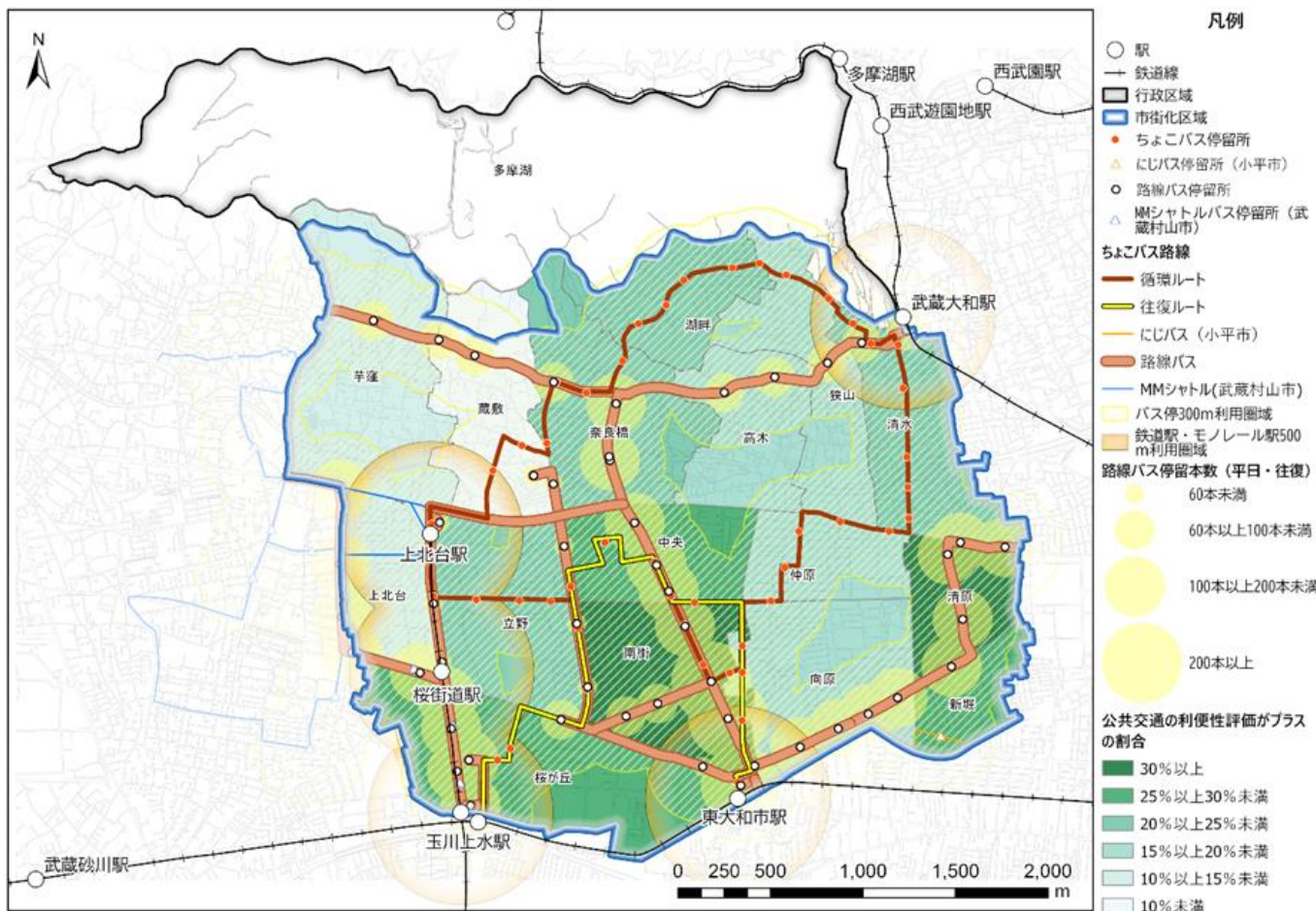
買い回り品で利用する商業施設および立地する自治体
(出典：東大和市のまちづくり・地域公共交通に関する住民アンケート調査)

2 アンケート調査を用いた分析

4. 交通

■交通利便性の評価（「東大和市のまちづくり・地域公共交通に関する住民アンケート調査」（令和7年7月実施））

- ・ 交通利便性に対する評価は、運行頻度の高いバス路線沿いのエリアで肯定的に評価する人の割合が多い
 - ・ 一方、運行頻度の高くないバス路線沿いやちよこバスで補完しているエリアでは否定的に評価する人の割合が多い
- ➡地域公共交通の在り方の検討に活用



公共交通利便性に対して**肯定的**な人の割合

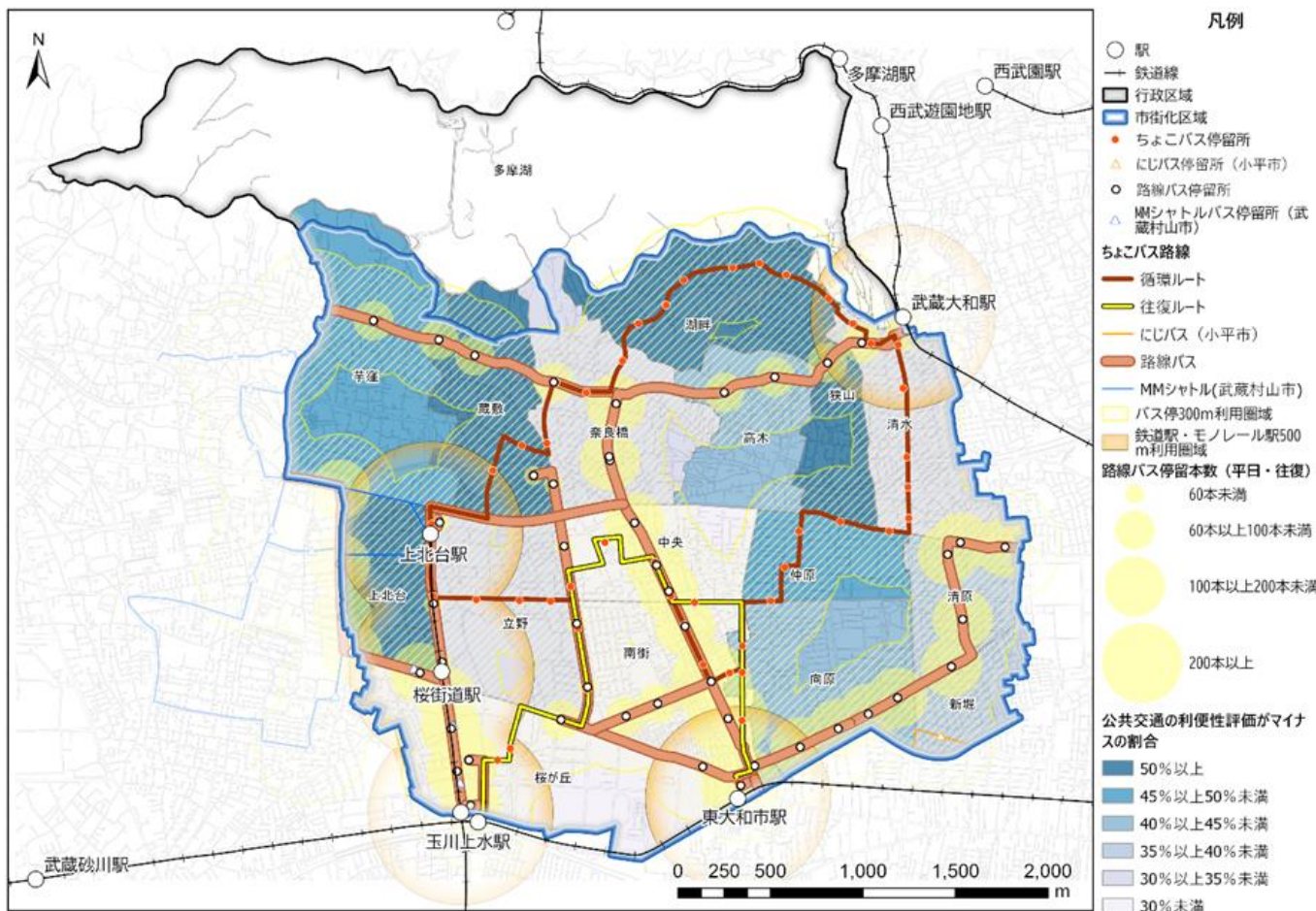
（出典：東大和市のまちづくり・地域公共交通に関する住民アンケート調査）

2 アンケート調査を用いた分析

4. 交通

■交通利便性の評価（「東大和市のまちづくり・地域公共交通に関する住民アンケート調査」（令和7年7月実施））

- ・ 交通利便性に対する評価は、運行頻度の高いバス路線沿いのエリアで肯定的に評価する人の割合が多い
 - ・ 一方、運行頻度の高くないバス路線沿いやちよこバスで補完しているエリアでは否定的に評価する人の割合が多い
- ➡地域公共交通の在り方の検討に活用予定



公共交通利便性に対して**否定的**な人の割合

(出典：東大和市のまちづくり・地域公共交通に関する住民アンケート調査)

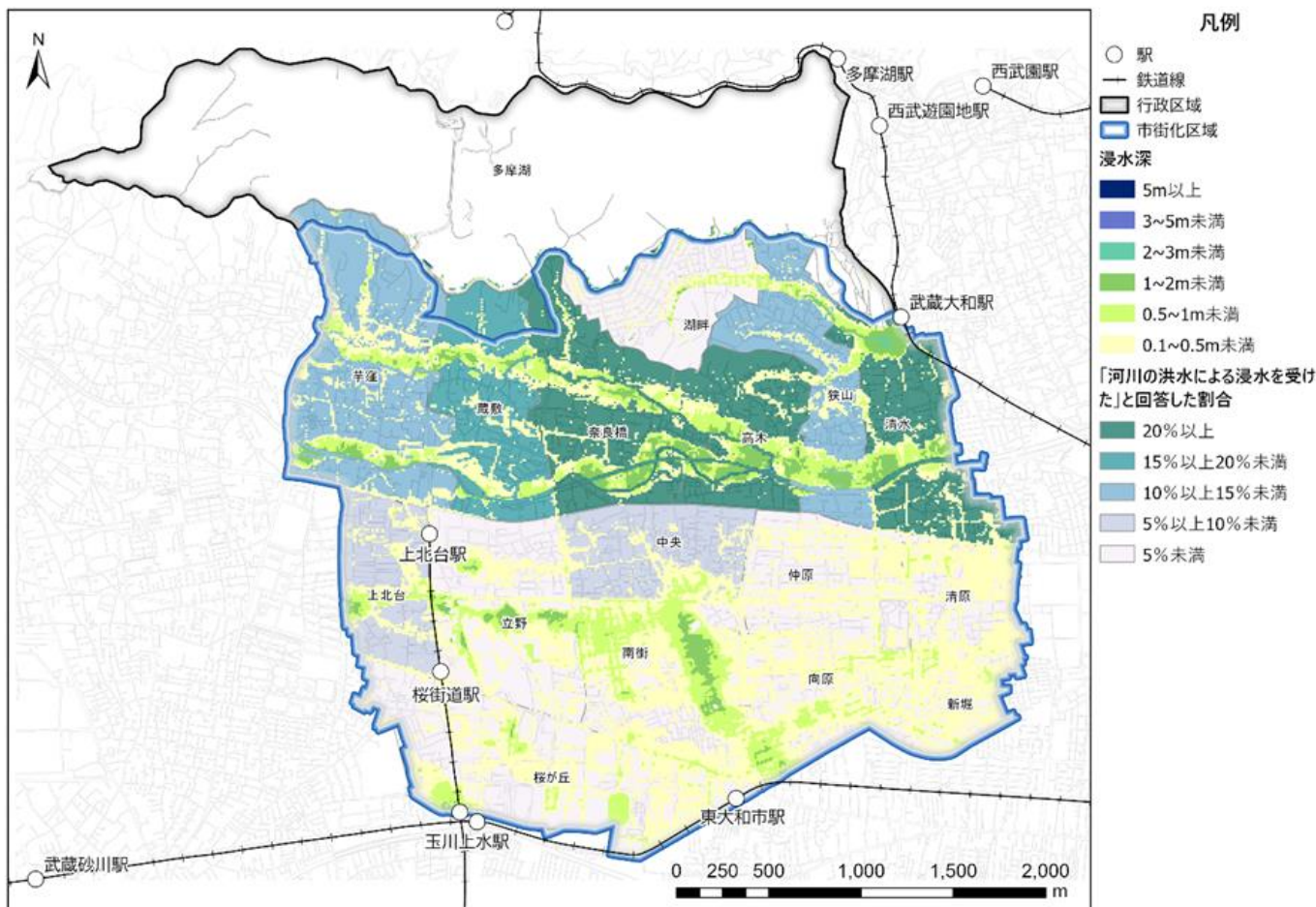
2 アンケート調査を用いた分析

6. 安全・安心

■災害リスクの認識（「東大和市のまちづくり・地域公共交通に関する住民アンケート調査」（令和7年7月実施））

- ・町別に災害に対する不安に思う災害の割合を図化し、ハザードマップに重ねたところ、災害リスクのあるエリアと不安に思う人の多いエリアが概ね一致している

➡防災指針におけるハード・ソフト両面の取組の検討に活用予定



河川の洪水による浸水に不安を感じる人の割合と洪水・内水浸水想定区域
(出典：東大和市のまちづくり・地域公共交通に関する住民アンケート調査)

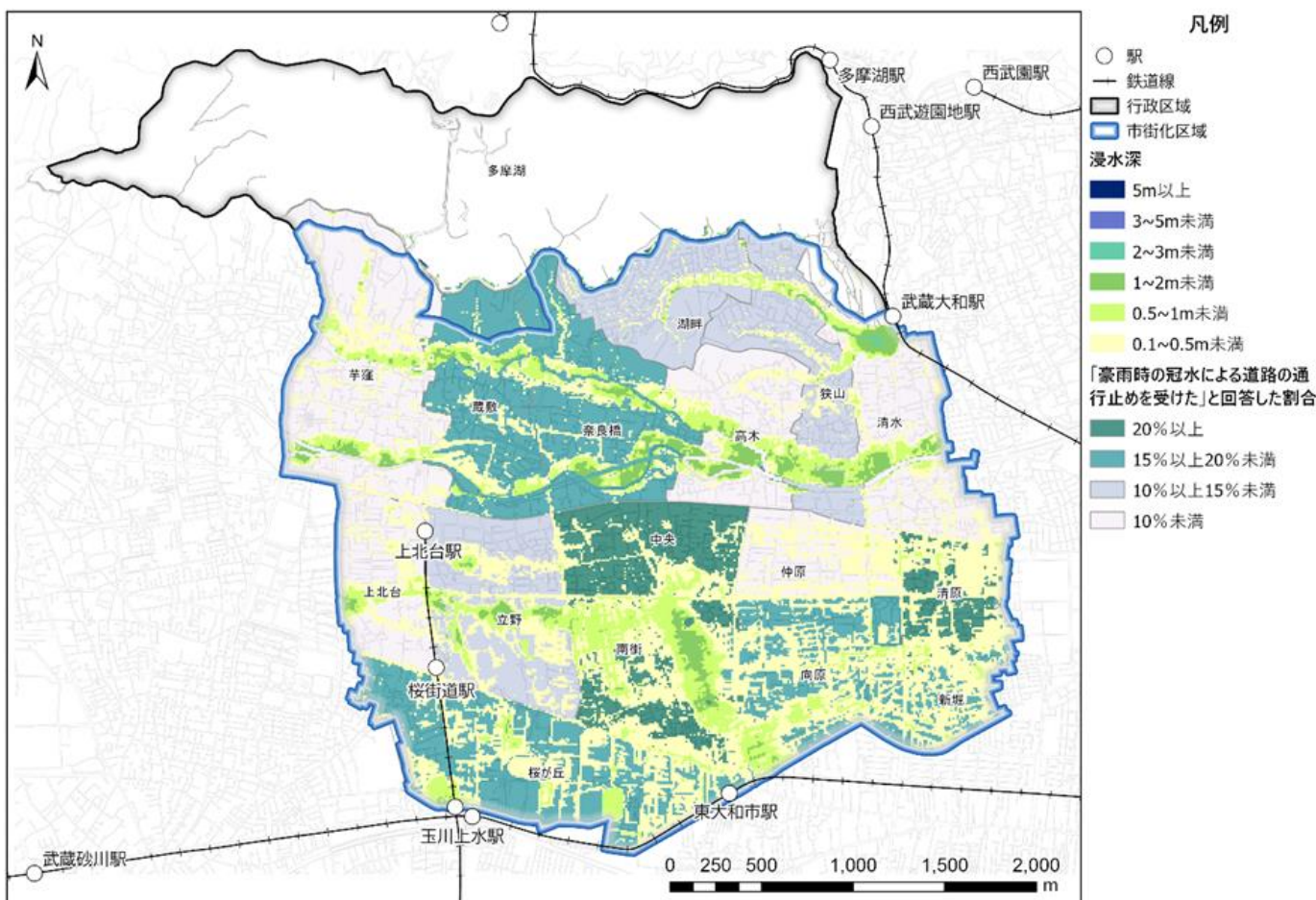
2 アンケート調査を用いた分析

6. 安全・安心

■災害リスクの認識（「東大和市のまちづくり・地域公共交通に関する住民アンケート調査」（令和7年7月実施））

- ・町別に災害に対する不安に思う災害の割合を図化し、ハザードマップに重ねたところ、災害リスクのあるエリアと不安に思う人の多いエリアが概ね一致している

➡防災指針におけるハード・ソフト両面の取組の検討に活用予定

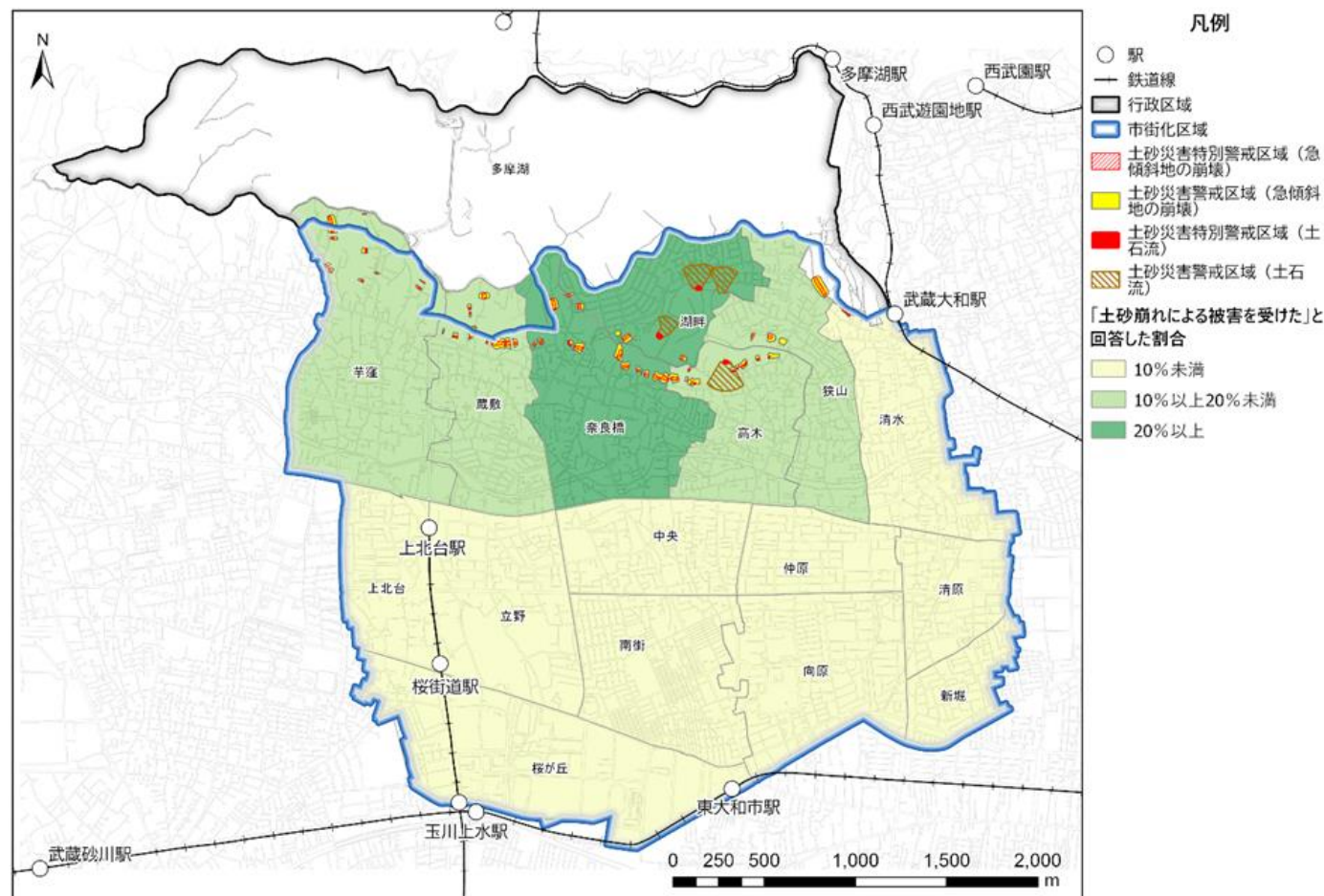


豪雨時の冠水による道路の通行止めに不安を感じる人の割合と洪水・内水浸水想定区域
(出典：東大和市のまちづくり・地域公共交通に関する住民アンケート調査)

6. 安全・安心

- ・町別に災害に対する不安に思う災害の割合を図化し、ハザードマップに重ねたところ、災害リスクのあるエリアと不安に思う人の多いエリアが概ね一致している

➡居住誘導区域の設定と防災
指針におけるハード・ソフト
両面の取組の検討に活用
予定



19